

日米相互特技訓練の進展

Continuing progress of Japan-U.S. Bilateral Exchange Program

平成30年度日米相互特技訓練は、航空自衛隊部隊へ米軍下士官を受け入れての訓練及び米空軍部隊へ隊員を差し出しての訓練がそれぞれ3回実施され、計画どおり進捗している。

訓練は、浜松基地（7月24日～31日）、高良台分屯基地（10月9日～16日）及び山田分屯基地（10月17日～26日）に米軍横田基地、嘉手納基地及び三沢基地から米空軍下士官を受け入れて各部隊の計画により実施された。また、米軍三沢基地（7月11日～20日、9月18日～27日）に延べ15名及び横田基地（9月5日～14日）に14名の空自隊員が米側計画の訓練に参加した。

空幕教育課のご高配により、高良台分屯基地及び山田分屯基地での訓練について、それぞれ部隊の准曹士先任からの寄稿していただき、また、米軍三沢基地及び横田基地での訓練風景写真を提供していただいたので、あわせて紹介します。（福永理事 記）

- （目次）
- 1 日米相互特技訓練（高良台分屯基地）
 - 2 日米相互特技訓練（山田分屯基地）
 - 3 日米相互特技訓練（米軍横田基地）
 - 4 日米相互特技訓練（米軍三沢基地）

1 【日米相互特技訓練（高良台分屯基地）】

第2高射群第8高射隊 准空尉 永石 敏裕

10月9日（火）か10月16日（火）の間、高良台分屯基地第2高射群第8高射隊（隊長兵藤浩太郎2等空佐）において日米相互特技訓練（在日米空軍第18戦闘航空団（嘉手納））が実施されました。高良台分屯基地における本訓練の受入れは、第8高射隊長の指導の下、8高隊全隊員で受入れを実施しました。ただし、我が隊において在日米空軍の受入れを行うのは初めてのことで、不安と緊張の中での訓練受け入れでした。

訓練初日は、米空軍訓練者の到着を8高隊隊員で出迎え、隊長表敬、記念撮影、在日米空軍への導入教育（8高隊概要説明及び基地内生活説明）、日米相互の自己紹介及び隊終礼で8高隊隊員への紹介を行いました。そして夜は、アイスブレイカー（懇親会）を実施し、開始当初は日米相互が不安で緊張し堅い表情でしたが、次第に双方とも打ち解けて和やかな雰囲気醸成してまいりました。



↑ 出迎え



↑ 記念撮影



↑ 隊終礼での紹介



↑ 支援要員と相互に自己紹介

2 日目は、8 高隊の各小隊等を実地に研修し、午後からは特技毎の訓練を行いました。

3 日目は、引き続き特技毎の訓練を行い、日米の装備品、装具及び業務の進め方等を肌で感じる
ことができ、今後、日米共同任務を行う上で良い機会となりました。また、課業時間外においては、
高良大社観月祭に赴き、日本の伝統文化である箏曲や琵琶の調べに耳を傾け深く感銘を受けている
ようでした。



↑ 特技訓練（補給）



↑ 特技訓練（消防）



↑ 特技訓練（車両整備）



↑ 特技訓練（電気）

4 日目は、8 高隊の主要装備品であるペトリオットの訓練を見学し、午後は春日基地において西
部防空管制群及び西部航空音楽隊を研修しました。

5 日目（休日）は、久留米駐屯地創設記念行事、八女伝統工芸館及び酒造所等を巡り、特に酒造
所は、初めて見る日本酒の酒造りの工程を見学し好評のようでした。

6 日目（休日）は、芦屋基地航空祭研修及び高良台分屯基地准曹会による鍋パーティーにて鍋料
理に舌鼓をうち、とても満足そうでした。



↑ 史跡研修（酒蔵）



↑ 食事風景

7日目は、基本教練を実施し日米の教練の違いを知ることができました。また、課業時間外にフェアウェル・パーティーでギフト交換等を行い、在日米空軍訓練者から「高良台に来て良かった」「高良台は家族だ」「こんなに濃密で有意義な研修は初めてだ」等の感想をいただき、受け入れ部隊として本当に光栄でした。

訓練最終日は、意見交換、隊朝礼及び見送りをを行い、当分屯基地を後にしました。米空軍訓練者の中には涙を流しながら我々に手を振る者も見受けられ、感動の別れとなりました。



↑ フェアウェル・パーティー



↑ 見送り

この度の日米相互特技訓練の受入れは、日米の相互理解と絆を深くし、訓練当初は不安そうな面持ちであった受入要員も、在日米空軍訓練者と毎日一緒に行動することで、英会話は相変わらずの片言でしたが、日に日にコミュニケーションがとれて笑顔が多く見られるようになり、英語能力を向上させる上で動機付けとなり、隊員にとって良い経験となり、また、自信につながったと感じられました。また、日米の違いが分かったと同時に共通のものを見つけることができ大変有意義なものとなりました。

最後に、8高隊が今回受け入れを行うにあたり、日米エアフォース友好協会会員の皆様方の格別な支援を賜り、無事に終了することができましたことをご報告するとともに厚く御礼を申し上げます。

2【日米相互特技訓練（山田分屯基地）】

北部航空警戒管制団第37警戒隊 准空尉 新家 宏身

北警団第37警戒隊は、10月17日から26日まで、山田分屯基地で「日米相互特技訓練」を実施しました。訓練指揮官 神村2尉の指揮のもと、全般計画からアシスタント（対番係）業務、総務全般、空幕や関係部隊及び機関との調整等を手分けしながら準備を進めてまいりました。米空軍受入れは、当部隊も私も初めてで不安でありました。北警団司令が初度視察（日米相互特技訓練の

進捗状況確認兼ねる。) で来基され、「気合い」を注入し、山田分屯基地司令からは、「全隊員が必ず挨拶を交わすこと。」を掲げられ、隊員一丸となり受入れに臨みました。

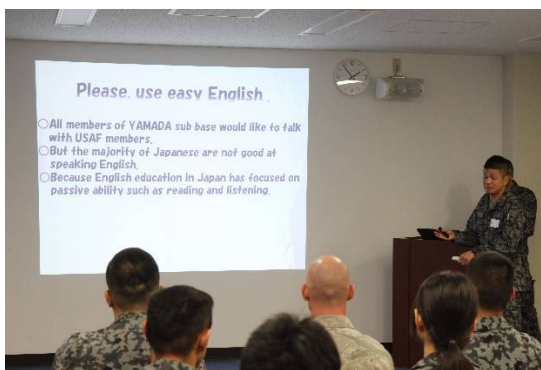
訓練初日は、山田分屯基地に第 35 戦闘航空団最先任チーフ・アルズビグ上級曹長以下 10 名がバスで到着し、バスが見えた瞬間に、対番空士から「あー緊張する」の声が漏れ、その一声で周りに居た対番隊員も緊張がほぐれたようでした。米空軍一行が山田分屯基地司令を表敬し、写真撮影をした後、対番者及び米空軍下士官の自己紹介を実施し、導入教育を行いました。課業後は基地クラブ「もっきり蔵」において懇親会を行い、早くコミュニケーションを取れるよう日米対番ペア毎にスピーチをして頂きました。また、米空軍側の写真付プロフィールを配布したことで会話が弾みました。



↑ 出迎え



↑ 記念撮影



↑ 導入教育



↑ 懇親会

翌日以降は、日本の文化、日本及び空自の概要・歴史等を対番空士が英語で説明を実施しました。また、各小隊において米空軍の特技に合わせた職場体験を実施し、意見を交換することで日米の相互理解を深め、双方の特技能力向上に繋げることができました。当分屯基地にはない特技参加者がいましたが、「日米相互に色々な特技の話を聞いて良かった。」と言ってくれました。

課業時間外はフットサルやバスケ等で汗を流し、歓迎会、岩手県内の観光、震災遺構巡り、バーベキューなどを実施し、その都度数多くの隊員が米空軍との交流を図り意気投合している姿が見られました。今回英語の苦手な隊員で対番に選ばれた者は、部隊での勉強会のほか、5 術校の英語課程への入校や現地訓練に参加し英語能力を高める等、各人が自信をつけ、堂々と米空軍とのコミュニケーションを図っており、その姿を見て誇らしく思いました。



↑ 職場体験（重機操作）



↑ 職場体験（写真）



↑ 職場体験（メンタルヘルス）



↑ 職場体験（ネットワーク）



↑ 郷土芸能（虎舞）



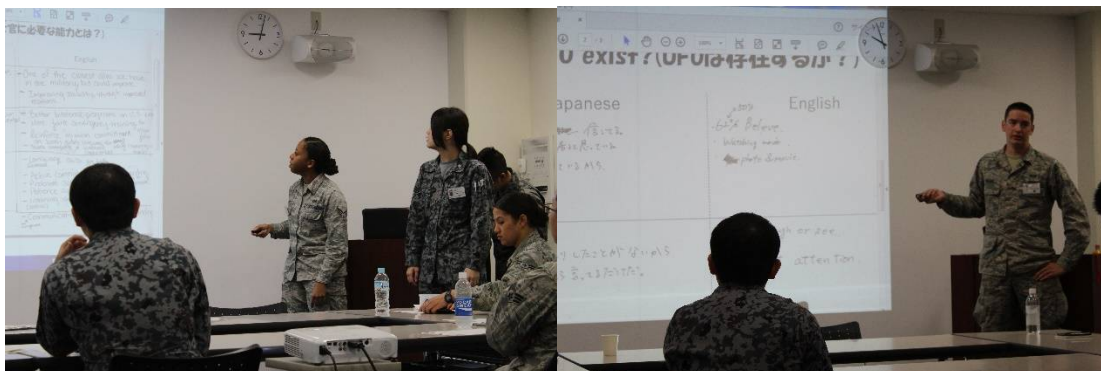
↑ バレーボール

課題研究で、「今後の日米同盟の発展に貢献するために下士官に求められる能力とは？」という議題を提起したところ、各グループともコミュニケーション能力の向上が最も重要であるという結論になり空自及び米空軍共に今回の訓練を通して身に付けた能力や技量は、非常に有効であることを理解しました。サヨナラパーティーでは、余興で通信班長の居合道の型を披露し、クラブの「もっさり蔵」からは、サプライズケーキを振舞っていただき、米空軍 2 名（10 月生）とも「こんな事初めて」と言って喜んでいました。



↑ 討論風景 ↑

なお、最終日には、日米相互による成果発表と所感及び意見交換を実施しました。日米共に「特技訓練をやってよかった。また、やりたい。」と答えていました。米空軍参加者からは「色々な特技や職場を見学し、会話もしたかった。」と言われました。対番要員の特技だけでなくその他の特技の職場見学を設け、その際に質疑応答等を実施するように計画すればよかったと少し後悔しました。空自対番者からは「米空軍のスキルが高い位置にあると認識した。」と言っていました。日米の相互理解深化及び日米同盟の基盤強化のため、今後も更に充実した日米相互特技訓練の継続が重要であると認識しました。



↑ 成果発表 ↑

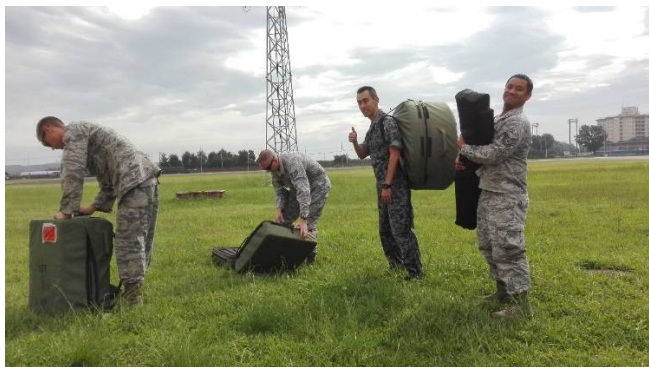
後日、チーフ・アルズビグ上級曹長から「山田分屯基地の対応に非常に満足している。日米相互にとって良い訓練であった。今後、受入れの際の参考とする。」というお言葉を頂き嬉しく思いました。

この訓練を山田分屯基地で開催できたことに改めて感謝します。日米の相互理解及び絆を深め、部隊の特技能力及び英語能力の向上を図る良い機会でありました。この訓練に参加した隊員にとって、素晴らしい人生的一幕となったと思っております。この訓練で、参加者は言葉の壁があっても交流ができることを学んだと確信しました。言葉は手段であり重要ではありますが、それよりも歴史や文化という背景を知ることが重要であり、それは相手を尊重することであることを学びました。この経験を生かし部隊から巣立っても、空自内での後輩育成に尽力し、また、他幕や諸外国との統合運用のような重要な任務に携われる隊員に成長することを願います。

最後に、この日米相互特技訓練を支援して頂いている日米エアフォース友好協会の皆様には心より感謝を申し上げます。また、この訓練が大成功に終了したことを報告いたします。有難うございました。

3 【日米相互特技訓練（米軍横田基地）】





飛行点検隊 米田 3 曹 機上無線



救難教育隊 仙石 2 曹 航空機整備



第 3 補給処 山内 2 曹 総務



第 1 高射群 森崎 2 曹 電気員



第 2 術科学校 津和田 3 曹 計測器整備



第 4 補給処 那須 2 曹 救命装備品整備



第 27 警戒群 田中 3 曹 警戒管制員



第 5 航空団 立和田 3 曹 飛行管理



第 11 飛行教育団 力丸 3 曹 警備

第 1 航空団 永井 3 曹 給養



第 43 警戒群 坂本 3 曹 警戒管制員

4 【日米相互特技訓練（米軍三沢基地）】



第 3 航空団司令訓練視察



フェアウェル懇談



警備訓練講義



第3航空団 小松3曹 警備



第26警戒隊 佐々木3曹 消防



千歳管制隊 小野3曹 飛行管理



北部航空施設隊 苫米地3曹 土木建築

「この訓練以降、北施隊1作隊と米軍第35施設中隊との交流が盛んになり、定期的に交差訓練及び合同訓練を実施している状況です。私も微力ながら現場の調整を行っております。」
苫米地3曹